第5回

お墓（建碑式）

なるほど仏事

浄土真宗本願寺派備後教区
基幹運動推進委員会

建碑式

新しくお墓を建立した際の儀式を、一般的には「魂（お性根）入れ」「開眼法要」などと言われますが、浄土真宗では用いません。浄土真宗では「建碑式」（建碑法要）をお勤めいたします。

お墓

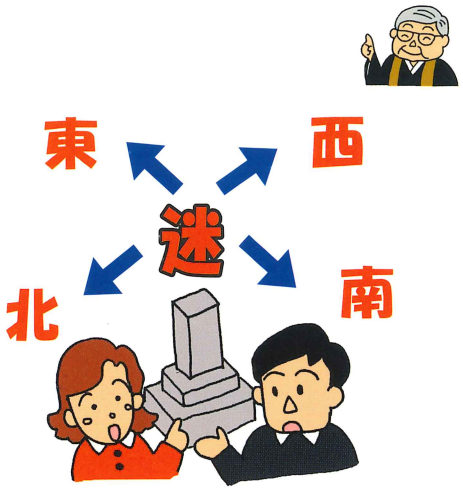
墓石の形や正面に刻む文字等は、地域や時代によって様々です。お墓を建てる時は、ご住職に相談するのが良いでしょう。

浄土真宗のお墓は、故人のお墓を縁として、私たちが仏法にあわせていただくもので、石そのものを拝んだり、遺骨を拝んだりということではありません。

かけがえのない命を私に伝えてくださったご先祖に感謝しつつ、命のはかなさや、阿弥陀如来さまの大きなお慈悲に気づかせていただくご縁の場所です。

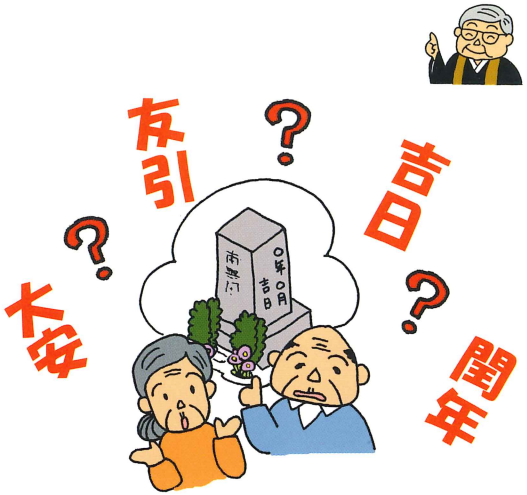
ご住職にまず相談を！

浄土真宗の門徒は
場所や方角にこだわりません



お墓の方角や場所によって、幸・不幸が生じることは一切ありません。みんながお参りしやすい場所や方角が良いでしょう。

浄土真宗の門徒は
日の良し悪しにこだわりません



お墓を建立する時期に、決まりはありません。六曜（友引・仏滅等）や閏年などにもこだわりません。ですから「〇年〇月吉日」のように、吉日の文字は入れる必要がないのです。

門徒もの忌み知らず

浄土真宗の門徒を「門徒もの知らず」とよく言いますが、何も知らない、ということではありません。「門徒はものを忌む事をしない」つまり、日の善し悪しや方角を気にしたり、占いやまじないに振り回されたりしない事からできた、門徒をほめたたえられた言葉です。